

図書館 2001 年度の動き

はじめに

21 世紀の幕開けとなる 2001 年度の本学図書館は、中央図書館のオープン（2001 年 3 月 16 日）に始まり大きな飛躍の年となった。中央図書館は、多くの学生・教職員・校友に利用され、連日活況を呈した。一方、中央図書館の施設設備の充実がとりわけ電子図書館利用環境において、和泉・生田図書館の「地域間格差」として明らかになった。その是正に向けての歩みが始まった年でもあった。

図書館の営みは、学習や研究に有用な資料を選び、収集し、それを体系化（目録化）し利用に供する。そしてこれら文化的資産である資料を後世の利用のために保存する、というものである。近年は収集する資料媒体の範囲が広がり、マルチメディア資料は勿論のこと、学外の諸機関が作成する各種データベース利用が増加した。

特筆すべきことのひとつに、2001 年度から図書館図書費のなかにデジタル資料費が一定金額設けられたことである。デジタル資料費は、急増する電子ジャーナル、外部（企業等が提供）データベース、CD-ROM 等の学術資料を利用する為の利用料及び購入の費用である。私立大学でもっとも早く明確に図書館のデジタル資料費としてかなりの金額を認めた理事会の見識と英断を評価しなくてはならない。

本学図書館は、駿河台キャンパスに中央図書館、和泉・生田キャンパスに和泉・生田図書館がある。中央図書館には、図書館全体の管理部署としての図書館庶務課と整理課、利用者サービス部署としての総合サービス課がある。和泉・生田図書館はいずれも利用者サービス部署である。総合サービス課は、新図書館の開館を機に従来の閲覧課、文献情報課を統合したもので、利用者サービス全般を担う新しい組織である。

以下に本学図書館の 2001 年度の諸活動を取りまとめ、今後の図書館運営に利したい。

館長・副館長の交代

2001 年 3 月末日任期満了で三枝一雄館長（法学部教授）、斎藤哲副館長（政経学部教授）が退任され、同年 4 月 1 日新たに野上修市館長（法学部教授）、木谷光宏副館長（政経学部教授）が就任した。任期は 2003 年 3 月までの 2 年間である。

中央図書館

2002 年度 3 月 16 日に新たに開館した中央図書館は、リバティタワー（教育棟）の隣という立地のよさもあり、連日学生等の利用者であふれている。また、学内外からの見学者も多数である。特に、新設のマルチメディアエリアの利用者が多く、利用待ちの行列ができるほどである。全体の利用者数は、前年度比約 7 割増という状況である。中央図書館の開館を機に発足した総合サービス課は、課をあげて利用者サービスの向上に取り組んだ。

なお本学図書館は、中央図書館開館を機に、日本図書館協会が主催する「優れた図書館建築を顕彰し、それを広く世に知らせることによって、図書館建築の質の向上を図る」

を目的とした建築賞に応募した。結果が待たれるところである。

私立大学図書館協会関係

■ 本学図書館は、全国 420 校の私立大学が加盟する私立大学図書館協会の会長校として 1999 年 4 月から 2000 年 3 月まで重責を果たした。2001 年度・2002 年度は、私立大学図書館協会監事校並びに常任理事校として貢献している。

そして、2001 年 8 月には、一大イベントである私立大学図書館協会総会・研究大会が本学を会場に行われた。この大会は、2 日間にわたり行われるもので、全国各地から延べ 1000 人の参加があり、盛況のうちに執り行われた。本学を総会・研究大会の会場として開催するのは実に 40 年ぶりのことで、本学図書館総出でこれに対応した。メインテーマは「いま、あらためて『活字文化』を考える」で、総会、記念講演、大懇親パーティ（於東京ドームホテル）、研究大会、それに同時開催の業者展示会などを行った。中央図書館の事実上のお披露目も兼ねて行い、多くの参加者から絶賛をいただいた。

■ 私立大学図書館協会と国立情報学研究所は、目録システム講演会（図書コース）を開催しているが、本学図書館職員が講師として活躍している。この講演会は、NACSIS-CAT システムに参加する全国の大学等職員に対して目録精度の維持・向上のために行うもので、本学から継続して講師を派遣し、国立情報学研究所からの評価も高い。

海外図書館への支援

■ 1999 年度の韓国・翰林大学校日本学図書館に対する日本語図書処理システム及び目録作成支援、2000 年度のラオス国立大学経済経営学部に対する図書館設立支援（第一次調査訪問）に引き続き、2001 年度は、ラオス国立大学に第二次派遣を行った。具体的には、中林雅士（図書館庶務課）柴尾晋（和泉図書課）の両名が、第一次訪問の調査を踏まえ、図書館システムを作成及び適用、図書目録処理指導及び処理作業を行った。また、図書館の基盤である学術図書の選書、基礎資料の収書指導等の人材育成を行ってきた。JICA（（財）国際協力事業団）の要請に基づくものであるが、ある意味でラオスの国家的図書館基盤を確立したと言える大事業であった。

また、2002 年 3 月には、台湾の大葉大学長からの要請に基づき、本学が寄贈を受けて重複して不要となった図書約 2000 冊を同大学図書館に寄贈した。

「千代田区立図書館と明治大学図書館との相互協力に関する覚書」の締結

中央図書館のコンセプトのひとつに生涯学習に対応する図書館を目指し、また図書館は地域への貢献、社会に開かれた図書館の実現を志向していた。その端緒として駿河台キャンパスがある千代田区在住の住民に本学図書館利用の道を開こうというのが協定の目的である。「図書の譜（図書館紀要：第 5 号）」で、千代田区立図書館長と本学三枝館長（当時）の対談をきっかけとして、一年近く両者で検討を重ねた結果であった。2002 年 3 月 11 日、千代田区役所にて両館長が覚書にサインをして協定が成立した。

■ この協定はマスコミ各社からも注目を浴び、読売、産経、日経各誌にとりあげられた。

山手コンソーシアム

多くの注目を集めた協定に基づく八大学図書館の相互協力（山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム）は、この年大きな成果をとげた。それは、協定校学生・教職員へ図書の貸出が実施されたことである。当協定は 10 項目の実施プログラムがあるが、貸出プログラム実施により、相互協力に基づく利用者サービスが格段に向上した。この相互協力協定は多くの学外関係機関から注目を集めている。

「アトラス・ヌーボー」展開催

石川県立図書館、明治大学創立 120 周年記念事業委員会との共催で、金沢市において開催された全国校友石川大会において、「アトラス・ヌーボー」展を開催した。本学図書館の特色ある資料群である蘆田古地図コレクションのなかのひとつ「奥地図編小解」を展示し、地元マスコミ等から大いに注目を浴びた。

「奥地図編小解」は、日本にもたらされた最初の近代的世界地図帳で、加賀藩が所有していた「アトラス・ヌーボー」（石川県立図書館所蔵）と対をなす解説書で、旧加賀藩石川の地で、これまで離れ離れになっていたものが実に 130 年ぶりの再開をはたしたものである。

著者と語る（第 4 回）

例年和泉図書館の開架閲覧室を会場に、主に和泉キャンパスに在籍する学生を対象として、図書館に慣れ親しんでもらおうという意図で開催するものである。今回は 6 月 22 日、本学名誉教授で高名な考古学者である大塚初重先生に「わが古墳研究五十年」と題し講演いただき、好評を博した。

本学資料をマイクロフィルムで刊行

本学の貴重な原資料である「関東警務局資料」を（株）日本図書センターがマイクロフィルムにして販売した。これは、「明治大学図書館所蔵図書等の撮影及び掲載の申請手続きに関する要綱」に基づき刊行し、その収益の一部を本学に納入するものである。本学図書館所蔵資料をこのような形で複製販売したのは初めての試みであった。

人文学研究所蘆田文庫編纂委員会主催公開勉強会

標記委員会は人文科学研究所所属教員と図書館職員（7 名）からなる委員会であるが、永年にわたって活動を継続している。同委員会主催の公開勉強会が 11 月 17 日、新装なった中央図書館地図室で行われた。「新発見の伊能大図を巡って」をテーマに講師に鈴木純子氏（日本国際地図学界常任委員・相模女子大学講師）を迎え、20 名の参加があった。図書館の資料を利用してのこの種の研究会が更に活発に展開されることが期待される。

和泉・生田情報環境設備

大学が企画した和泉・生田地区情報環境整備計画に基づき、和泉・生田図書館に情報

コンセント及び電源工事が行われ、2002年3月に完了した。和泉図書館に70口、生田図書館に30口の情報コンセントができ、パソコンをつないでインターネット等の利用が可能になった。

新学科対応図書購入

2002年4月から政治経済学部地域行政学科、文学部に心理社会学科、経営学部会計学科、公共経営学科が新設された。図書館はそれに対応する図書の購入、整理、利用等について検討を重ねてきた。2002年・2003年度にそれを行うべく各学部と打ち合わせ、効率的な実行策を検討してきたところである。

図書館紀要第6号を刊行

図書館の資料を利用した研究発表や図書館職員の調査・研究の発表媒体として、年1回刊行している図書館紀要「図書の譜」第6号が年度末に刊行された。

図書館自習室移転と管理の課題

これまで6号館4階にあった図書館自習室(280席)が、駿河台B地区再開発に伴い6号館が取り壊しとなり自習室は11号館に移転した。移転の際、教務課が管理する、学部自習室と合体して自習室として発足すべく検討を重ねたが、それは実現せず、114席「共通自習室」として11号館で運営を開始した。管理・運営について今後課題を残している。

書店連携システムと洋図書整理の業務委託

和図書(主に新刊図書)の選書・発注に基づく調達、整理、装備等、一連の処理を行う「書店連携システム」は2年目を迎えた。加えて、洋図書整理の業務委託を2001年度下期から開始した。これは整理要員減員によるものと、資料の迅速提供を目的としたものである。

研修生及び図書館実習生の受入

本学図書館は、外部機関等から研修生を受け入れ、数日間にわたり研修及び実習を行っているが、本年度は以下のとおりである。

- ・ 図書館情報大学図書館実習生(1名)、9月3日～9月21日
- ・ 国立国会図書館員(2名)、10月16日～17日平成13年4級研修外部機関実習
- ・ NII主催総合目録データベース実務研修(20名)、11月2日
- ・ 北京日本学研究中心館員(2名)、2002年2月25日～3月6日

職場合同研修会と図書館スタッフ研修会

毎年図書館事務部全体で行う職場合同研修会は、2002年2月28日に「ラオス国立大学経済経営学部図書館設立支援」の報告会を行った。支援事業を担った柴尾晋氏(和泉

図書課)と中林雅士氏(図書館庶務課)から、有意義な報告を聞いた。

図書館スタッフ研修会は、新しい正副館長を迎え6月17日～18日千葉県君津市で行った。テーマは、「図書館の改革と活性化をめざす—利用者サービスの検証と拡充—」で、両日にわたりテーマに基づく報告と意見交換を行った。また11月には学内で、「図書館の改革の新しい出発のために」と題し、研修を行った。

図書館庶務課受入係が整理課へ業務併合

事務部長会が推進する業務改革の一環として、これまで図書館庶務課が担ってきた「発注・受入係」のうち受入係(専任職員・嘱託職員各2名)業務を整理課に併合する検討を進め、2002年度初頭から実施する諸手を完了した。

生協便宜供与見直し問題

当大学と明治大学生協同組合間の関係において、従来の便宜供与見直しの方針は、図書館でも無関係ではなく、図書(単行書及び継続図書)、雑誌、コピー機(和泉、生田図書館)の設置について順次他業者へ契約変更を行った。

